

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 財団法人とよなか国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

とよなか国際交流協会（以下、協会）では、日本語事業においては開催曜日や時間、開催場所や活動形態のちがう多様な活動を展開することで外国人の多様なニーズに応えようとしてきた。しかし、多様なニーズに対応するためには活動の多様性を豊かにするだけでは限界があり、今後、予算の削減や人材の不足によってはその存続自体も危ぶまれる可能性がある。

1990年の入管法改正以降、日本では急速に国際化が進行し、地域においても「生活者としての外国人」の増加が避けては通れない状況である以上は、かれらを受け入れる持続可能な仕組みづくりが求められる。外国人が地域で安心・安全に生活していくために必要な情報や活動を適切に提供できるように、情報や既存の活動（事業）の「強み」と「弱み」をうまくつなぎ合わせる仕組みが必要になる。

外国人と日本社会との重要な接点となりうる日本語ボランティアが、「生活者としての外国人」に「必要なもの・こと」が何かを耳を傾け、必要に応じて関係機関や支援事業につないだり、活動（事業）内容の見直しを行い、ポスト（個人）としてのコーディネータではなく、仕組みとしてのコーディネータ（広くコーディネートされた活動体系）を生み出すことを目標とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月30日 10:00 ~ 12:00	とよなか 国際交流 センター	豊中市人権文化部文化芸術・国際室、 健康福祉部健康支援室、庄内保健セン ター、こども未来部子育て支援課、子育 て支援センター、市民生活部地域経済 振興室労働会館、教育委員会生涯学習 推進室地域教育振興課、岡町図書館、 社会福祉法人豊中市社会福祉協議会、 財団法人とよなか国際交流協会	委員自己紹介 委嘱事業の説明 今後のスケジュール	委嘱事業を実施 する背景と目的 の説明、年間予 定について
10月7日	岡町図書 館	岡町図書館、財団法人とよなか国際交 流協会、おやこでにほんごボランティアスタッ フ	図書館における 多文化サービスの 充実について、	図書館における 外国人親子対象 の事業の実施状

			外国人親子の読書環境ニーズ調査について	況、課題の整理、外国人のニーズ調査のための聞き取りアンケートをどのように実施するかについて
12月2日 10:00 ~ 12:00	とよなか 国際交流 センター	健康福祉部健康支援室庄内保健センター、こども未来部子育て支援課、子育て支援センター、財団法人とよなか国際交流協会、おやこでにほんごボランティアスタッフ	母子保健分野における外国人支援の課題と連携	各部署が抱える課題の共有と、子育て・母子保健分野における外国人支援と連携について
12月15日 13:30 ~ 15:00	とよなか 国際交流 センター	豊中市人権文化部文化芸術・国際室、財団法人とよなか国際交流協会、日本語ボランティアスタッフ	豊中市における多言語情報と外国人市民への情報発信の課題	豊中市文化芸術国際室より、外国人市民への情報提供や多言語情報の発信方法と課題についての説明、今後の課題解決方法を考える
1月21日 10:00 ~ 12:00	とよなか 国際交流 センター	豊中市立労働会館、とよなか国際交流協会、日本語ボランティアスタッフ、おやこでにほんごボランティアスタッフ	就労分野における外国人の抱える課題の整理と支援の連携について	外国人を雇用したことがある企業や、日本で働いた経験のある外国人の聞き取りや研修会での学びや気づきから、外国人の就労支援の在り方を考えた
2月2日 15:00 ~ 17:00	岡町図書館	岡町図書館、財団法人とよなか国際交流協会、おやこでにほんごボランティアスタッフ	図書館における多文化サービスの充実について、外国人親子の読書環境ニーズ調査について	外国人親子の図書館利用を推進するために行った事業の報告について、外国人親子の読書環境ニ

				ズ調査の実施報告、分析
2月10日 13:00 ~ 14:30	とよなか 国際交流 センター	豊中市立労働会館 とよなか国際交流協会 日本語ボランティアスタッフ おやこでにほんごボランティアスタッフ		外国人対象の就労支援講座の企画打ち合わせ
2月18日	岡町図書館	岡町図書館、財団法人とよなか国際交流協会、おやこでにほんごボランティアスタッフ	図書館における多文化サービスについて年間事業報告	外国人親子の図書館利用促進のために行った事業についての報告と今後の課題について
3月23日 13:30 ~ 14:30	とよなか 国際交流 センター	豊中市人権文化部文化芸術・国際室、庄内保健センター、市民生活部地域経済振興室労働会館、教育委員会生涯学習推進室地域教育振興課、岡町図書館、社会福祉法人豊中市社会福祉協議会、財団法人とよなか国際交流協会	事業報告 今後について	実施した事業(学習会・フィールドワーク・先進地域の視察)の報告、事業の成果について、今後の課題について

【写真】 (右の写真:2010年1月21日会議風景)

3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 多文化共生社会の基盤をつくるための
“むすびめ”を生み出す日本語コーディネーター研修
- (2) 研修の目標

①豊中市国際化施策推進基本方針に基づく施策・事業から、地域の国際化の現状と課題を検証する。(実態調査・課題の把握)

豊中市国際化施策推進基本方針における取り組み(事業)が、外国人市民が抱えるさまざまな問題の解決や予防となっているかを検証する。

②課題解決のための具体的な方法(事業)を検討する

「調査のための調査」に終わらないように、実態調査であがった課題解決の障害を明らかにし、分野を越えた協働により具体的な事業を企画する。協会の日本語活動や地域の持つソーシャルキャピタルを探求しながら、実現可能で将来的にも自立して継続できる事業を、市の関係部署なども含めた協力体制を確保しながら提案する。

③研修での学びと気づきをもとに、自分たちの日本語活動のあり方を振り返り、地域の多文化共生推進における日本語活動の役割を考える。



④これらの実践を通して、外国人が地域で安心・安全に暮らしていくための持続可能なセイフティーネット構築の素地をつくる

(3) 受講者の総数 _____人

(4) 開催時間数(回数) 76 時間 (21 回)

(5) 参加対象者の要件 地域の日本語ボランティアで活動するボランティア、外国人

(6) 受講者の募集方法 チラシ、市広報

(7) 研修会場

ア 講義 とよなか国際交流センター、豊中市立労働会館、千里文化センターコラボ、企業、視察の会場はそれぞれの団体事務所な

イ 実習 とよなか国際交流センター、豊中市立労働会館、企業など

(8) 使用した教材・リソース

講師・日本語ボランティア作成のレジメ・資料など

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
5月28日 10:00~12:00	「外国にルーツをもつ親子支援」 外国人親子を支援する上で知っておくべき基本知識について(資格資格や外国人の抱える問題、DV、支援者の役割などについて)	岡佑里子・京都YWCA	33
6月18日 10:00~12:00	「母語と日本語、2言語のはざまで生きる外国人親子」 国際結婚家族での子育てにおいて、特にことばの問題(母語と日本語)が、子どもの発達や親子関係にどのような影響を及ぼすかについて	中萩エルザ・在名古屋 ブラジル総領事館ブラジル 人民委員会ティスケサウ デプログラム医師	32
6月27日 15:00~17:00	「地域福祉の現場からーコミュニティの現状と課題を探る」 豊中市における地域福祉活動の変遷と、制度の狭間にある地域課題から地域課題を考え、コミュニティづくりへと展開していく仕組みづくりについて	勝部麗子・豊中市社協 / 牧里毎治・関西学院 大学	24
8月29日 15:00~17:00	「安心して多様な子育てができる地域づくり」 グローバル化時代における移民家族の母子保健と子どもの権利について。豊中市の母子保健サービスと外国人母子支援における国際交流協会との連携について	岡本里美・豊中市健康 支援室/ 李節子・県立 長崎シーボルト大学	20
9月17日 10:00~12:00	「むすびめプロジェクト・オリエンテーション」 委嘱事業の説明と今後のスケジュールについて、活動からみえる日本語を越える課題やニーズにどのように対応していくか(ワークショップ)	富江真弓・とよなか国 際交流協会	19
9月26日	「いま、子どもたちの生きる力を育むために」	西尾隆司・豊中市教委	22

15:00~17:00	大阪府の帰国渡日児童生徒のサポート事業に携わった経験から、外国にルーツをもつ子どもや家庭と関ることで見えてきた課題について	/小川裕之・大阪府警	
10月10日 15:00~17:00	「野宿者支援の経験から」 野宿者支援の経験から、その背景にある構造的な問題を学び、社会的排除に対抗するためにどのような支援や運動が必要なのかを考える	生田武志・野宿者ネットワーク代表	41
10月13日 13:30~16:00	「労働分野における外国人支援を考える」 労働会館の役割、事業について(地域就労支援センターや無料職業紹介所の取り組み、就職困難者へのサポートなど)	西岡正次・労働会館館長	11
10月17日 15:00~17:00	「日本語ボランティアが大切にしたいこと～対人援助の視点から」 対人援助者として大事な視点をワークショップなどを通して学んだ	李圭子・NPO法人 KARALIN	30
10月20日 10:00~12:00	「母子保健・子育て分野における外国人支援を考える」 保健センターの紹介と母子保健事業について、外国人母子サポートの連携について	中尾こずえ・庄内保健センター	16
11月10日 14:00~16:00	「企業への聞き取り①～外国人研修生を受け入れて～」 外国人を雇用したことのある企業に、外国人を雇用するに至った背景と目的、問題点、今後の展望について話を聞き、「就労」における外国人支援のあり方を考えた	地域の企業	7
11月15日 15:30~17:30	「外国人は“害国人”なのか～共に生きる日本社会を築くための課題」 外国人を排除する構造を生み出してきた歴史を知り、今日の外国人問題を捉えなおす	田中宏・元一橋大学	52
11月18日 15:30~17:30	「企業への聞き取り①～外国人研修生を受け入れて～」 外国人を雇用したことのある企業に、外国人を雇用するに至った背景と目的、問題点、今後の展望について話を聞き、「就労」における外国人支援のあり方を考えた	地域の企業	8
12月5日、6日	「生活者としての外国人の自立と社会参加を考えるための先進地域への視察研修～名古屋・豊橋・浜松～」 外国人の自立や社会参加につながる実践を行っている団体に、事業についてや、外国人が問題解決を行う主体となる人材育成、外国人が主体となった組織運営について学ぶ 視察先:①フィリピン人移住者センター②かけこみ女性センター③愛知県国際交流協会④まなびや@KYUBAN⑤日本語ボランティアシンポ	①フィリピン人移住者センター②かけこみ女性センター③愛知県国際交流協会④まなびや@KYUBAN⑤日本語ボランティアシンポ	18

	ターあいち③愛知県国際交流協会④まなびや@KYUBAN ⑤東海日本語ネットワーク主催・日本語ボランティアシンポ ジウム2009⑥NPO法人 外国人就労支援センター⑦浜松N POネットワークセンター⑧(財)浜松国際交流協会	ジウム 2009⑥NPO法 人 外国人就労支援セ ンター⑦浜松NPOネッ トワークセンター⑧(財) 浜松国際交流協会	
12月10日 10:00~12:00	「外国人への聞き取り①日本で働いて～介護・福祉分野～」 介護・福祉分野で働いた経験のある外国人に、日本で働い て感じたこと、困ったこと、嬉しかったことについて話をしても らった	地域に暮らす外国人	18
12月19日 10:00~12:00	「先進地域への視察研修・報告会～名古屋・豊橋・浜松～」 名古屋・豊橋・浜松への視察の報告と、視察での気づきや 学びからモデル事業立案ワークショップを行った		19
12月24日 10:00~12:00	「外国人への聞き取り②日本で働いて～製造業・ものづくり 分野～」 製造業で働いた経験のある外国人に、体験談を話をしても らった。また、ビジネススキルアップセミナーを受講しての感想を聞 き、外国人就労支援講座立案の材料とした	地域に暮らす外国人	8
2月12日 15:00~17:00	「外国人住民の就労をめぐる課題と今後の取り組みにむけ て」 雇用危機により可視化した外国人就労の現状と問題点、新 たな課題、政府による外国人雇用対策事業の概要、今後の 展望について	田村太郎・ダイバーシティ 研究所	14
2月13日 11:00~16:30	「先進地域への視察研修～神戸～」 外国人支援事業について大事にしている視点、多様な団体 が共存しているたかとりコミュニティセンターの歴史や、共有空間 の使い方、協働事業の立案・運営について	金宣吉・神戸定住外国 人支援センター代表/ 日比野純一・NPO 法人 たかとりコミュニティセ ンター専務理事/村上 桂一郎・ワールドキッズ コミュニティ事務局長	15
2月22日 15:00~17:00	「しごとにつなげるにほんご講座・事前学習会」 講座でサポート役を担うボランティアの事前学習会	繼本智月・コンシル代 表	15
①3月1日 13:00~17:30 ②3月3日 13:00~17:30 ③3月5日	「しごとにつなげるにほんご講座」 研修会や視察での学びをもとに、就労を希望する外国人対 象の講座(モデル事業)を企画・運営した。 講座目的:①外国人が日本で働くために、知っておくべき知 識や実践的な日本語を学ぶ。②外国人が実際に様々な労	繼本智月・コンシル代 表/ 堀西雅亮・多文化共生 センター大阪副代表理 事	①V: 16 外国人: 13 ②V: 8 外国人: 8 ③V: 14

13:00~17:30 ④3月9日 10:00~15:30 ⑤3月16日 9:30~15:00	働分野を見学・体験することで、「働く」イメージを膨らませる。③外国人の就労支援を行う人材(仮称・多文化ジョブサポーター)の役割と人材養成プログラムの内容を模索する。 講座内容:ビジネスマナー、日本での働き方、文化・習慣の違い、職場の人間関係を円滑にする日本語、電話の日本語、履歴書の書き方、面接について、面接の日本語、振舞い方、職場見学(スーパー・介護施設・工場)	地域の企業(4企業)	外国人:12 ④V:8 外国人:5 ⑤V:6 外国人:5
---	---	------------	--

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

視察研修～名古屋・豊橋・浜松～に参加して 日本語ボランティア

12月15日朝日新聞夕刊一面の見出しは「日系ブラジル人苦境」「自宅手放し職探し」だった。1990年の入管法改正で来日し、バブル景気に沸く日本の製造業を派遣という不安定な身分で支え、昨年のリーマン・ショックで職を失った日系ブラジル人の記事である。ここに出てくる浜松市と豊橋市は外国人集住地域といわれるが、また同時に外国人への生活支援事業の先進地域として注目されている地域でもある。

今回とよなか国際交流協会の視察研修の地に選ばれ、協会で活動しているボランティアは、日本社会で生きている外国人の“今”を肌で感じる機会を得た。「日本で働き続けたい日系人を始めとする外国人支援の取り組みも各地で始まっている」と記事にもあるように、私たちが訪問した組織や団体は、差し迫った状況に素早く対応している人達の熱い思いが伝わってくるころばかりであった。

外国人の自立には「安定した職」が不可欠である。そしてそのための「教育」、特に日本で育ちこの地に根付いている子どもたちへ、誰が、どこで、何をするのか、至急に対策を講じなければならない。今回の視察で学んだ各事業はそのためのヒントを数多く与えてくれた。

豊橋市『NPO外国人就労支援センター』の外国人青少年に対する就労支援は、就労の前段階である就学、つまり学校へ行く意味をも教えてくれる取り組みであり、不就学対策にもなりうるであろう。そしてそのシステムは、成人の就労支援にも応用できそうである。

また、浜松市『(財)浜松国際交流協会』が行っている事業の多さは、この地が抱えている問題の重さを物語るものであり、事業を進める職員の方やそこに関わる人々の思いの深さを感じることができた。その一つ『就労準備研修 シャンセ！にほんご』の“職場体験”は、豊中でも実施されるよう期待したい。『介護のためのにほんご』においては、介護の資格取得を目的とする外国人のための教材としても役立つものと思われる。

訪れた他の団体も、外国人が日本で生活していくための支援を、形を変え視点を変えて実践されていたが、その先にあるものはどこも単なる外国人支援を超えた多文化共生社会の実現に他ならない。

今回の視察研修は、私たち協会で活動しているボランティアにとって、これからの共生社会のあ

り方や方向性を再認識する良い機会であった。各地域での実践から学んだことを今後の活動に生かし、特に就労支援においては関係する各団体との“むすびめ”を丁寧に作りながら、豊中市の実情に合った仕組みを具体化していきたいと思う。

視察研修～名古屋・豊橋・浜松～に参加して 日本語ボランティア

今回の視察の中で、どのグループの話の中でも共通していたのは、地域といかに連携できるか、ということだったように思う。そして、いろいろな団体や組織・企業を巻き込んで、それぞれがまずは理解すること、問題意識を持つこと、主体性を持って問題に取り組むこと、それらをひとつひとつ積み上げていくことが大切であることを改めて痛感した。

このことは、実は私たちボランティア自身がどうあるべきか、ということにも通じるのではないだろうか。

ボランティア活動も8年目を迎え、決して慣れてきたというわけではないが、目の前だけのことではなく少しは広く物を見られる余裕が出てきたことによって、自分のしていることが果たして必要とされていることなのか、単に自己満足に終わっていないか、と考えるようになった。そもそも社会的な活動に関わりたいという思いから始めた活動なので、社会的に意義が感じられない活動はしたくないと思っている。

「協会事業の振り返り会」「協会をともに考える会」など、今までにも“つながる”場へは比較的積極的に参加してきたつもりだが、いつもどうも上滑りした感じがして、しっくりこなかったのはなぜだろうか。

そんな思いの中で、この視察研修では、「つながる」という意味では大いに収穫があったように思う。たぶんそれが主催者側の大きな狙いだったのだろうとは思いますが、意外に人は簡単な共同作業の中で人間をすり合わせていけることを実感した。これが何か新たなものを生み出すきっかけになればいいのだが、浜松のような外国人集住地域とは異なり、外国人が点在あるいは潜在している豊中では果たしてどんなことが考えられるのだろうか。

“むすびめ”事業で介護ヘルパー養成の支援が始まった頃、木ひるではビジネスマナーも含めた日本語講座が作れないものか話し合いをしたことがあったが、これをさらに具体化してみたいと思う。また企業訪問や、浜松の企業内での日本語教室の話聞いて思ったのは、外国人の行動範囲が非常に限られていること、特に研修生などの場合は企業側が行動範囲を制限しているように思われ、彼らの支援をするとなるとできるだけ近い所で受け皿を作る必要があると思う。豊中の町工場内で教室というのは物理的に無理かもしれないが、今回聞き取りに協力してくれた企業の常務のような理解ある人からの働きかけで、工場労働者向けの日本語講座を開催することも考えてみたい。近々豊中にも看護師派遣の話も聞こえ、働く外国人は怒涛のようにやってくる気配だ。

浜松国流の堀さんの話の中にもあったが、とにかく一度やってみる、それで初めて問題点が浮き上がってくるような気がする。おそらく浜松の就労支援のための講座はさらにバージョンアップしていこう。豊中でもぜひ、豊中に合った、豊中だからこそできる活動を生み出してほしいと思うし、微力ながらお手伝いしたいと思う。

視察研修～名古屋・豊橋・浜松～に参加して 日本語ボランティア

研修では、先進地域と言われる地域における、さまざまな支援の取り組みについて話を聞くことができました。①フィリピンマイグレーションセンター（FMC）の事務所、②かけこみ女性センターあいち、③日本語ボランティアシンポジウム、④NPO 外国人就労支援センター、⑤浜松 NPO ネットワークセンター、⑥（財）浜松国際交流協会の計6ヵ所を訪問したのですが、今思い出すとあれがたった1泊2日のことだとはにわかに信じがたいです。それだけ、濃密で充実した時間を過ごしたということだと思います。

これまで私は日本語教育という枠組みの中で外国人に接してきました。なので、日本に住む外国人は当然日本語を必要としているだろうという前提のもとに、日本語支援を行ってきました。しかし、今回の視察では、日本語の習得は日本に住む外国人を取り巻く問題のほんの一部でしかないことを実感しました。また、そのような問題に対応するため、さまざまな取り組みが行われていることも知ることができました。例えば、FMCでは主催者のバージさんが自分の体験も交えながら、グループの取り組みについて語ってくれました。印象に残ったのは、活動がまずは在日フィリピン人を取り巻く問題に気づくことから始まって、人との出会いによって徐々に広がってきたという部分です。1人ではできないことも、人と一緒にやることで可能になっていくこともあること、そのようにして人がつながることの重要性を感じました。

今回の研修では、私自身もこれまで接点を持つことができなかった、他の活動のボランティアの方や、労働会館の方とお話することができました。特に食事会では、参加者がそれぞれ自分のバックグラウンドについて話すことによって、どうして現在関わっている活動に参加することになったのかということや、現在抱えている悩みなどを知ることができました。活動の内容やアプローチは異なっても、活動の枠を越えて一緒に協力していくことで解決できることもあるのではないかと思います。

最後になりましたが、これからの課題は、今回の研修で見聞きしたさまざまな取り組みを現在自分が関わっている活動にどう活かせるのかということだと思います。豊中市の状況は、いわゆる先進地域といわれる地域と全く同じというわけではありません。また、そのような異なる地域に住む外国人をとりまく問題にも異なる点があるはずですが、今後豊中の実情を把握しながら、今回の研修で出会えた方々と一緒にこれからできることを考えていきたいと思っています。

視察研修～神戸～ 参加者アンケート

<印象に残ったこと>

- ・たかとりは、種々なグループの人々が時間、場所、イベントを共有することにより、相互理解や協調性、協力体制とかが無理なく自然に出来ていくのかな。
- ・九つの団体がそれぞれ自立した活動をしながら、ひとつのネットワーク組織として上手に機能し、またその団体を後方支援している「たかとりコミュニティセンター」のあり方に感心しました。
- ・金さんは現実を分析して何をしなければならないか（やりたいこと）を地域に密着して具体化しているように見え、その行動力には敬意を感じました。

- ・TCC で多くの NPO や NGO が同じ建物の中で協調して仕事をしていること。
 - ・KFC では、金さんのお話の中で、ライフチャンス頼れるものがいっぱいあるのが自立、となりに座る権利と座る力があるのが社会参加という話。国際交流 3 階の話も。
 - ・TCC では村上さんのさまざまな団体と交わり結びつきながら協働していくのは、調整も必要だし時には負担を抱えることもあって大変なことも多いが、単体ではなし得ないことが可能になり、豊かな活動ができるというお話は、具体的な体験に基づく重みがあって、とても説得力がありました。
 - ・地域の特性を知りつくして本当に必要とされていることが何か見極めている感じがして、参考になる点が多々あった。
 - ・神戸定住外国人支援センターでは、「主体的に生きる」「自立」ということを考えさせられました。支援をする（フレンドシップという言葉で言い換えてらっしゃいましたが）ことで関係性を構築していくというアイロニーについて話されたことが印象的でした。また、以前より長く日本に在住する外国にルーツをもつ人の歴史をいまだに内実化できていない日本の状況について改めて考えさせられました。「自立」を頼れるものがいっぱいある状態、「社会参加」を荷物がかかるくすることと説明されていましたが、一つのセンターや場所で支援が完結されない広い仕組みづくりがこれからの外国人支援に求められていると、話を聞いて考えました。
 - ・KFC のお話では、震災を経験し、共に生きるということを身をもって体験してこられた時間の重さを、現場にいて実際みせていただくことで実感しました。
- 組織の在り方もフレキシブルで面白く、それぞれが役割をいくつももっていることで、組織内の意思疎通がとりやすくなっているなと思いました。また、設立時の理念を大切に守りながらも、時の流れに合わせて、はなれたりくっついたりする活動のありかたと内容にも感動しました。大切なことは、「このような視点を持っていない人とどのように一緒に活動できるか」ということだと話しておられましたが、人的リソースの中長期的視野にたって、ゆるやかなネットワークをつくり、流れに身を任せて活動をされている KFC に大変魅力を感じました。

<疑問に思ったこと>

- ・参考にしたい部分、勉強になった部分が多くて、疑問までには至らなかったが、KFC での子どもへのサポートで、母語の教育と学校の勉強、どちらに比重を置くのかの選択が難しいと思うと同時にもっといろんな例を聞いたかった。
- ・それぞれの団体は多岐にわたる活動をされていますが、その活動資金はどのようにして得られているのでしょうか？（もちろん、いろんな助成金や後援会費、また寄付などを受けてられると思いますが、定期的に定額収入を確保するのはかなり難しいかと思います。専従スタッフなどの人件費をどのように捻出されているのでしょうか？）
- ・たかとりコミュニティセンターの中に入っている団体と TCC の関係、教会との関係、各団体の間での人の行き来など、問題点はないのでしょうか。
- ・人権の立場で言えば、情報の交換だけではダメだ。それは今から豊中で何を基盤にし、どのような市民の協力が必要なのか。会場貸しだけでない活動の場をどうすれば作ることができるか？

・学生による活動は限られてくると思いますが、どのような方法で参加させ支援させているのでしょうか？とても気になりました。

視察全体を通して疑問に思ったことは、お話のなかで何度も「地域」「コミュニティ」という言葉がでていましたが、各団体でこれらの言葉をどのように捉えているのかが気になりました。聴くとわかりやすい言葉だし、よく使用される言葉だとおもうのですが、それぞれがそれぞれの意味合いで使っている場合が多く、わかりづらい言葉でもあります。では、とよなか国際交流協会のいう、「地域」「コミュニティ」はどのような範囲を示しているのか？どのような場面で使用していたか？などと振り返ってしまいました。

<感想>

・定住外国人からの相談を受けるのではなく、各機関を研修して、専門機関が外国人の相談に対応できるようにされているということ。豊中も今回の労働会館との協力などどんどん進めてほしい。

・たかとりコミュニティセンターのような誰でも主体になれるような場所や活動を作りたいと思った。

・誰にとってもいつでも安心して安全な場所。そのためには、十分な話し合いやルール作り、私たち一人一人が互いに協力することが必要で道のりは遠いかもかもしれないが、いろんな人が集まれる場所がすばらしいと思った。

・始点より視点、支点が大事。また母語・母国文化教育は他者の押しつけになっていないか…？という「神戸定住外国人支援センター」理事長の金さんのお話にうなづけました。

・NGOやNPO、地域の人たちが、ことばや文化習慣の違いをのり越えて共生している様子や、また、その後方支援に徹している「たかとりコミュニティセンター」のあり方のお話をお聞きし、とよなか国際交流センターもそのようになればいいなあ…と思いました。

・TCCの中心的である、たかとり教会はカソリックの教会でありながら、宗教の壁をのり越え、垣根をつくらず地域の人たちと繋がっていく姿勢が素晴らしいと思いました。

・KFCでは、武闘派の金さんのお話、ビンビンと響きました。外国人に関する社会的な認識、国際交流のあり方、多文化共生についてなど、私が普段漠然と感じていることを、実際の状況に基づいて語って下さり、共感できることが多くありました。また、子どもの支援に関する話はとくに興味深く伺いました。母語や母国の文化の保持ということ、精神的な居場所をつくるということも欠かせず大切なことではあるが、一方で実際の学力保障をしていくことも必要で、そのことがアイデンティティの保障に繋がっていくという話は、かつて教育に関わる仕事についていたこともあり、考えさせられることが多かったです。

・今回の研修に参加して、他の活動をされているVさんとの交流できたのがとても楽しく、意義深い経験となりました。昼食時に他の活動の様子を聞かせていただいたこと、移動中、TCCのバー、帰りの電車で語り合ったこと…。活動そのものとはかけ離れますが、KFCからの移動時に木ひるのVさんが長田の町を歩きながら震災時に全壊の被害に会われた体験をリアルに話して下さったのも私には印象的でした。

・他の活動ではどんなことをしているか多少なりとも知っている、また、メンバーの方と知り合ったこと、まずはそのことをむすびめにしていきたいと思います。

・教会というバックグラウンドがあるので公共施設とは全く異質な成り立ちだとは思いますがとても興味深い取り組みで何か新センターでも取り入れることのできる要素が見つけれそうな気がした。

・私は外国人の子どものサポート事業に関わっていますが、それと関連して印象に残ったのは、金さんが「子どもの学力保障や居場所づくり」は「将来への投資」であるといわれたことです。子どもの事業はすぐには結果が帰ってこない、しかし将来を考える上で、もっとも重要な投資であるというところに、とよなかでの事業と同じ視点があると感じました。「子どもの自立」を考える際、学力を保障していくことは自らが将来を切り開いていくために重要なことなのだという認識をとよなかのボランティアもしっかり再認識する必要があると思います。子どもにたいする刹那的な支援ではなく、必要なのは未来につながる支援であるという視点をボランティアが共有する必要性を感じました。

・日本に住んでいて日本人だからあたりまえに思っていた事が、外国人がこんなに多くいらっしやった事も知らず、こんな私の様な人が少しでも現実を知り、少しでも暖かく手助け出来たら、このような講習を受けさせて頂いた事は、とても意義深い事だと思います。また、たかとりコミュニティセンターでは、色々な活動を目にし、地域社会の大切さ、暖かいボランティアの方々の想いを身近に感じました。心優しい人々の1人の小さな力を皆で大きな力にかえていく大切さを感じました。自分自身も楽しみながら人も楽しませてあげられる様な場所を作っていきたいと思います。仕事で疲れて穏やか寛げる場所を求めて集まって来た人同士みんな楽しく過ごしましょ。国、年齢、男女の壁を越え、人として平等に語り合えたら素晴らしいですね。

② 実施主体からの研修内容結果評価

研修は、以下の4本の柱立てで実施した。

A：学習会（形式：講義形式）

結果評価：豊中市における各分野における外国人施策や、外国人問題だけでなく、さまざまな分野（福祉・母子保健・子育て・教育・社会的弱者の支援、対人援助など）における大切な視点や課題を知ることができ、事業実施の背景となる考え方を深めることができた。

B：フィールドワーク・聞き取り

結果評価：実際に、市役所の部署（組織・団体）の担当者にそれぞれの分野における支援や利用できる制度や、外国人へ対してどのような対応や支援がなされているのかについて具体的な話をきくことができた。これにより、外国人支援を行う上で活用できる社会資源や、課題が明らかになった。また、実際に外国人を雇用した経験のある企業への聞き取りと、日本で働いた経験のある外国人への聞き取りを行うことで、両者の立場のニーズを知ることができ、効果的な支援の内容やあり方を考える材料とな

った。支援を行ううえで、まず第1に受益者（対象者）のニーズを把握した上で、支援プログラムを作り上げていくことが重要であることを改めて感じる事ができた。

C：先進地域の視察

結果評価：外国人集住地域で先進的な取り組みを行う組織や団体への視察を行うことで、事業実施に至った背景・目的・手法・課題解決の糸口を具体的に知ることができた。また、他地域を知ることで豊中の地域課題や地域資源（リソース）に新たに気づくことができた。

D：実践的学び（モデル事業の企画・運営）

結果評価：上記3本柱の学びから、「生活者としての外国人」のニーズに合った事業を模索すると同時に、事業の企画・運営・評価について実践的・体験的に学ぶことができた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

とよなか国際交流協会では、日本語事業においては開催曜日や時間、開催場所や活動形態のちがう多様な活動を展開することで外国人の多様なニーズに応えようとしてきた。しかし、多様なニーズに対応するためには活動の多様性を豊かにするだけでは限界があり、特に、2008年末の経済危機により、制度（支援事業）の狭間からこぼれ落ちる人やニーズにどう対応していくべきかが大きな課題となっていた。このような状況の中、今年度、文化庁委嘱事業を実施することにより、支援の狭間にいくつか“むすびめ（＝セイフティーネット）”をつくることができ、ある一定のこぼれ落ちるニーズ（特に失業者の支援や、自立・エンパワメントを求める外国人女性の就労ニーズ、地域で孤立する外国人母子の把握とつながりづくり、外国人に使いやすい図書館づくり←or 図書館における外国人への多文化サービスの推進）を拾い上げることができた。今後は、この“むすびめ”を仕組みとして強固にしていくとともに、新たな“むすびめ”づくりを行い、外国人が安心・安全に暮らせる地域づくりのセイフティーネットを構築していく。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・研修により、それぞれの分野や事業において外国人が抱える問題の解決に活用できる社会資源（情報や事業）を把握することができた。
- ・市のさまざまな関係部署や分野において、外国人の抱える問題が地域課題のひとつとして認識され、その課題解決のための連携を整理・確認することができた。
- ・市の関係部署と新たな連携が結ばれたこと（＝それぞれのもつ地域資源をうまく組み合わせること）により、これまで解決できなかった課題に取り組める素地ができた。
- ・研修を通し、日本語ボランティアが地域日本語活動の本来の意味（課題を明確にし、必要なリソースとつながりながらその解決を図るために行動すること）を得ることにより、日本語活動が狭義の「ことばの支援」に留まらない新たな視点を共有することがで

きた。

② 研修後の人材活用

研修により、地域資源や行政の仕組みを理解・把握した受講者が、コーディネーターとなり、協会や市の関係部署などさまざまな分野の組織と協働で実施したり、グループを立ち上げ、次年度以降にも事業が継続して実施できる仕組み—特に事業費や人材の確保については、市民活動を推進するための制度などを活用するなど—具体的な案を模索し、活動の安定的な継続や自立化を目指す。

(12) 今後の課題

① コーディネーターの配置・人材育成

委嘱初年度の 2009 年度は、行政機関との調整業務が多く、協会職員が事業のコーディネート役を担わなければならなかった。そのため、日本語ボランティアの中から「ボランティアリーダー的」人材を育成することができなかった。委嘱 2 年目は、行政の関係部署とも顔の見える関係性が築かれたので、日本語ボランティアの中から、コーディネーターを数名選出し、かれらが事業の全体コーディネートを行い、これらの事業を推進していく人材（ボランティアリーダー）を養成し、地域における多文化共生の裾野を広げることにつなげる。

② 運営基盤の強化

昨年度は、地域資源という外部リソースの把握に努めた。生活者としての外国人を持続的に支援していくためには、今後、各々のボランティア組織や体制そのものの質の向上や強化が同時に求められていくものと思われる。次年度は、そうした側面も念頭におき、研修テーマを広げていく。

③ 外国人リーダー人材育成・グループ育成

事業を推進する外国人リーダー養成を行い、将来的に、自立や社会参加を進める外国人自助組織（コミュニティ）づくりにつなげていく。外国人自らが問題解決能力を育むことで、「支援される側」から、安心・安全に生活できる地域づくりの主体（担い手）となっていくことを目指す。

④ 地域の他の日本語活動との連携

日本語活動の新たな視点（「ことばの支援」だけに留まらない活動や役割）を、地域の他の施設（例えば公民館等）で取り組まれている日本語とも共有し、オール豊中としての日本語活動の質的变化を促す機動力になっていく。